

DVDカメラを活用した社会科学学習

深谷西小学校 実践者・報告者 山本 誠

1 単元名・小単元名 「わたしたちの生活と情報」・放送局の働き 第5学年（社会科）

2 小単元目標

放送局で働く人々やニュース番組をつくる人々の働きを調べ、情報を正確に、速く、わかりやすく伝えるための様々な工夫や努力、連携など情報局の果たしている役割について考える。

3 指導計画及び実践の概要

段階	時間	学習活動	指導上の留意点	主な評価の視点	情報機器
つかむ	1	①ニュース番組が、どのようにしてつくられていたか関心を持ち、ニュース番組づくりの計画を立てる。	・社会科学見学で行ったNHKスタジオパークのパンフレットや、しおり等を見て、興味関心を持たせる。	関 放送局の様子やそこに従事する人たちの様子について調べている。	
調べる	2	②ニュース番組がどのようにして制作されていたか、どのような人たちの働きで支えられているかをインターネット等を使用して調べる。 ③グループごとに役割分担をして、計画を立て、ニュース放送にむけて、新聞やインターネット等で、記事を集め、準備をする。	・アナウンサーや、役割分担の仕事だけでなく、様々なスタッフの働きがあることを考えさせる。 ・自分たちで説明できる内容の記事であるか確認させる。 ・情報機器の扱いについて留意させる。	思 時間内に放送するために、放送局で働く人たちの連携や役割に責任を持っていることが理解できる。 関 自分たちで考えた表現方法の準備が意欲的にできる。 技 多くの情報の中から必要な資料を選んで、調べ、活用しようとしている。	DVDハンディーカムカメラ DVD-RWビデオ延長コード3本 デジタルカメラ ストップウォッチ
まとめる	3	④ニュース放送に向け、友だちと協力して練習やリハーサルをする。 ⑤本番を撮影する。 ⑥各グループの放送を鑑賞し、自分の考えを持ち、海外の放送や全国ネットワーク、デジタル放送等の工夫や努力に目を向けさせる。	・放送局は、それぞれが連携して、番組を制作していることの努力や、工夫、大変さに気づかせる。	関 グループの友だちと協力してまとめている。 知 テレビ放送が私たちに大きな影響を与えていることやアナログから地上波デジタル放送へ変わることで等について理解することができる。	DVDハンディーカムカメラ DVD-RWビデオ延長コード3本 デジタルカメラ ストップウォッチ

4 情報活用の意図

児童は、単元に入る前に「NHKスタジオパーク」に社会科見学へ行き、番組が創られる仕組みや、アナウンサーの仕事などを見学してきた。そして、放送局に対して興味・関心を持つことができた。

そこで、社会科で放送局の働きを学ぶことから、グループごとで、情報機器を使い、ニュース番組（生放送3分間）を制作することにした。

各グループで、編集長、アシスタントディレクター、カメラ、アナウンサー、解説者、タイムキーパーの役割分担を決め、6人1班を編成した。情報機器としては、DVDハンディカメラとDVD-RWを使用し、テレビに接続して画面を見ながら、アナウンサーの目線や表情などを確認すると共に、再度DVDで確認すれば、良い放送番組を制作することができると考え活用した。なお、DVD-RWは、繰り返し録画が可能のため、児童のリハーサルの様子や、番組編集が行いやすいので、使用することにした。



5 成果と課題

児童は、社会科見学で、スタジオでのアナウンサーやスタッフの様子などを見学してきているため、自分たちの教室をスタジオに変えたことで、たいへん身近に感じて、興味・関心を持ち、熱心に取り組むことができた。さらに、1人1役ということもあり、それぞれが自分の役割を責任を持って行わないと番組がつかれないことが、体験してみて実際に気づくことができた。

DVDカメラの使い方を児童に指導すると、直ぐに操作を覚えることができ、リハーサルなどを通して、上手に使いこなす児童もいた。また、テレビに接続したことで、アナウンサーや解説者の目線などもクラス全員で確認することができ、反省会にも役に立った。

このようなことから、パソコンだけではなく、様々な情報機器に触れさせることで、普段では気づかなかった児童の良さや協力態勢などを発見することができた。

発表が恥ずかしい児童もアナウンサーではなく、カメラマンやタイムキーパーなどで活躍することができ、それぞれの特性を生かすことができたので、良かったと思う。

今後の課題としては、児童の撮影したニュース番組と実際に流れているニュース番組をつなげる作業などは、教師が行わなければならないので、「編集」の場面では、児童のいるところで行った方が、編集者の努力が伝わったと感じた。また、インカム（ダミー）を使用して、アシスタントディレクターの雰囲気を出させることには成功したが、本物のインカムがあると、更にテレビを見ている児童との「通信」が可能となり、楽しく学ぶことができたようだ。しかし、放送番組を作成することだけに流されないで、放送局の働きを学んでいることを忘れないように配慮しながら、情報機器を今後も積極的に取り入れていきたい。